

寺報 善 巧

ぜん ぎょう

発 行

〒 938-0862 富 山 県
黒部市宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
TEL (0765) 65-0055
FAX (0765) 65-0975
メール info@zengyou.net
URL http://www.zengyou.net

賀 正

寺
ごよみ

一 月

一 日 年頭参り

三 日 日校かるた会

一 四 日 法要準備

御 正 忌

一 五 日 午前十時

下村お講

午後一時 法要

一 六 日 午前十時

浦山・栃屋・

熊野・大橋お

講

午後一時 法要

講師 濱畑遼一師



上の写真は、宇奈月町音澤地区にある手押しの霊柩車です。ひと昔前は、各地区に火葬場があり、このような霊柩車を皆で引き故人を送っていました。大きな火葬場へ高級霊柩車で運ばれることが当たり前の中で育ったばかりにとつては、親戚やご近所が集まって、故人を送る姿は、とても心が温まり、まるで映画のワンシーンのように映ります。

葬儀もホールが当たり前となりました。これは時代の移り変わりとしか言いようがなく、ここでその良し悪しを言うつもりはありません。正直なところ、僧侶にとつても夏は涼しく冬は暖かいホールはすこぶる快適です。ただ、利便性や効率を追い求めた結果、何を失ったかということとは、ちゃんと胸に留めたいと思っています。

つ な が り

人と人の繋がりが希薄になりました。効率を追い求めた結果、繋がりが薄くなったのか、繋がりがよいものが増えたのか、いずれにしても、これまでに以上に拍車をかけて、人に迷惑をかけるということが良くないこととされるように思います。

日本では「人に迷惑かけちゃダメですよ」と教え、インドでは「お前は人に迷惑かけて生きているのだから、人のことも許してあげなさい」と教えるそうです。この違いは何でしょうか。すべてのいのちは繋がりが合っているとこの縁起の法則がヒントになるとは思いますが、結論を急がず、時間をかけて考えていきたいです。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

善巧寺住職

雪山 俊隆

諸行無常の響きあり

善巧寺の梵鐘

善巧寺の現在の梵鐘は、昭和二十三年に前々住職の雪山俊之を願主に、総門徒を施主として新調されました。外側の彫刻は音澤出身の彫刻家佐々木大樹さんが手掛けています。

昭和二十三年というと、

戦後間もない時期で、とても貧しい時代です。

戦時中は武器の製造のため国から「金属類回収令」が出され、お寺の梵鐘や仏具の多くが強制供出されました。当時、国も教団も異常状態だったとは言え、お寺を心の拠り所としていた先人の方たちにとって、梵鐘を失う

ことは、この上ない悲しみだったことでしょう。終戦後、食べていくのもままならない頃に、現在の梵鐘が創りかえられています。前々住職の俊之はお寺に帰り着きそれほど時を経ていない頃ですから、おそらく、ご門徒

の方々からの強い要望によって新調されたものだと想像されます。

梵鐘は、行事鐘とも言

い、これから法要が始まる合図でもあり、原則として行事の一時間前に鳴らします。また、当時は時報としての役割もあり、みなお寺の鐘の音を耳にしながら日暮らしをされていました。

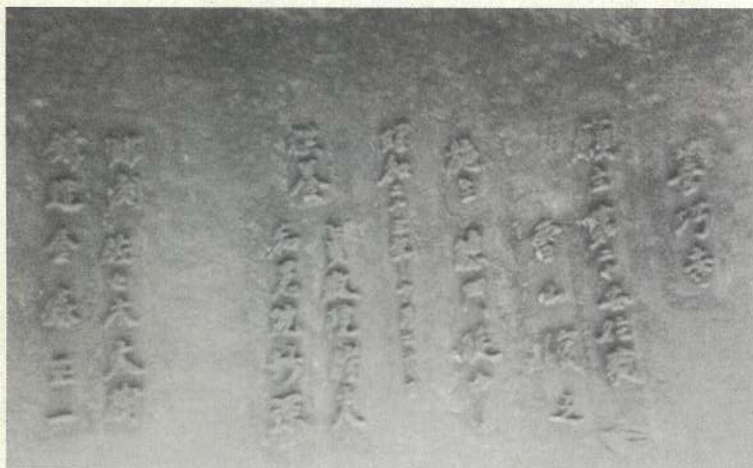
梵鐘を吊るすお堂を鐘楼（しやうろう）と言います。

現在の鐘楼は、平成二年、鬼原勝次さん（浦山新）の寄進によるもので、インドの祇園精舎にある鐘楼と同

型の形です。

たくさんさんの願いのこもった梵鐘。お寺にお越しの際は、改めて、当時の方

たちに想いを馳せつつご覧ください。



善巧寺 親鸞聖人七五〇回大遠忌

記念事業浄財

平成二十一年九月～二十四年三月

※二年目となりました。引き続きどうぞよろしくお願い致します。
四月から三年目になります。

本堂修復工事着工

平成二十四年四月～九月予定

※この期間は別室を仮本堂とします。

西本願寺の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

平成二十四年四月～二十五年一月

※黒西組（黒部・魚津地区の浄土真宗本願寺派寺院）合同での団体参拝は四月十三～十四日です。

善巧寺の親鸞聖人七五〇回大遠忌法要

平成二十五年十月十九～二十日

※稚児行列や帰敬式（おかみそり）を予定しております。

今年の営繕部

暮れも押し迫って水道料金が十倍に跳ね上がり水漏れが発覚。黒部市指定業者と営繕部が即刻調査にあたりました。長年にわたる増改築の度に敷設された配管網は複雑で漏水箇所調査は困難を極めました。急を要する事態の為今回建物の外側に主管を迂回配管して各設備に接続するとの結論に達しました。積雪前の十二月二十四日に工事は終了しました。詳細は後日お知らせする予定です。

今年度の主な営繕計画

- 一、会館雨樋補修（済）
- 二、給水管増径工事（済）
- 三、廊下床修繕（済）
- 四、庫裡トイレ修繕工事（新済）
- 五、銀杏樹枝払い
- 六、本堂畳入れ替え貯蓄
- 七、給水管入れ替え（新）

黒西組 お待ち受け法要

十月十九日

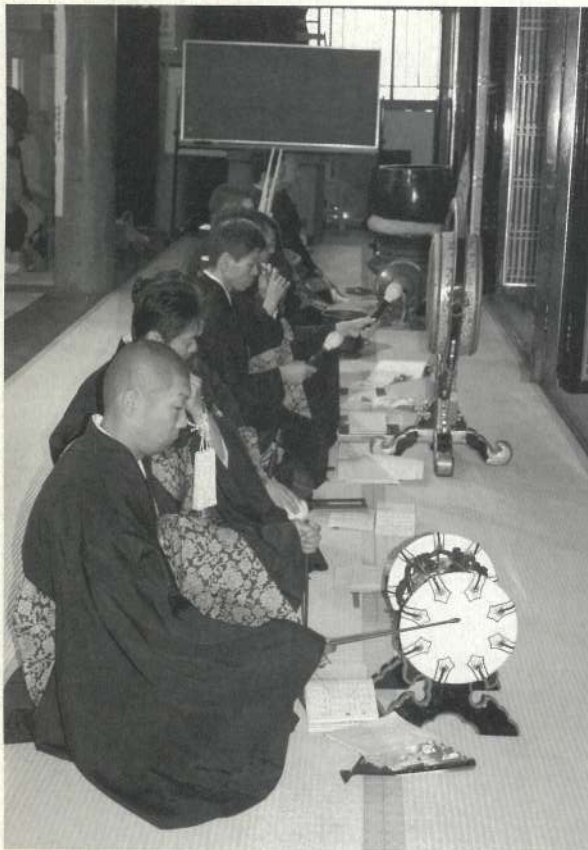
七月から九月にかけて
三回にわたり練習が行われ
徐々に緊張感が高まる
中、当日を迎えました。
心配された参詣者の数も、
本堂全体に並べられた椅子
にぎっしり二百人余の
お参りがありました。

雅楽と声明とエレクトーン
とコーラス。これらの
コラボレーションがなか
なか素晴らしく、参詣の
方々も一緒に歌われて本
堂全体が音楽法要に包ま
れました。参加された方々
から感動したという声を
多く聞きました。

御法話は広島からお越
しいただいた霊山勝海和
上。有り難い雰囲気にか
まれたお待ち受け法要で
した。

善巧寺の報恩講はこの
日のお初夜から翌日の御

満座までの三座。霊山和
上の御法話をたつぷりと
お聞かせいただきました。





空華忌

十一月十五・十六日

大阪高槻の常見寺の法

要と日が重なったため、

例年とは日程を変えて空

華忌が営まれました。

ご講師は行信教校理事

本山宗会議員、滋賀県の

弘誓寺住職那須野浄英先

生にお越し頂きました。

軽妙な語り口に「久し

ぶりに前住職を思い出し

た。一年に一度はこの先

生のお話を聞きたい」と

いう声も聞かれました。

十六日は浦山新のお講

のみなさんにお世話にな

りました。

雪ん子劇団富山県 環境保健衛生大会

十一月六日

昨年度から依頼を受け

ていた大ホールでの公演

で『とべないホテル』を

上演。舞台稽古も十分に

出来ずに迎えた本番でし

たが、照明効果に助けら

れ、団員も懸命に演じま

した。主催者の協議会会

長からお礼状が届きまし

た。「こども達によるミュー

ジカルは、会場を訪れた

人々の心に感銘を与え我々

に元気を与えてくれました。

我々大人がこのこども

達にかけがえのない美

しい地球を残していくた

めに今後一層の環境保健

衛生活動の推進が必要で

あるとの決意を新たにさ

せて頂きました。」

ほんこさまつれづれ

ほんこさまをお参りしている、いろんなものに目がいけます。今回はそんな中から、いくつか紹介させていただきます。

床の間ギャラリー

床の間は仏様をご安置する場所だったという歴史もあるので、仏画は特に相応しいです。

「二河白道」

観經四帖疏・善導大師



手前ではお釈迦さまが「この道を行きなさい」と示し、道の先には阿弥

陀さまが「この道を来なさい」と一本の白道を念仏の道に喩えてあらわされています。

「黒白二鼠」譬喩經



一本の藤づるにつかまる旅人の上には虎、下には龍、周りには蜂が飛び回り、頼りの藤づるも白と黒の鼠がかじっているという、凡夫の姿をあらわした大変厳しい絵です。

「親鸞聖人」

親鸞聖人の絵像にもいろいろあります。聖人が関東から京都へ移られる際の絵（下写真右）や、聖人に憎悪を持つ山伏弁円が草庵に乗り込んだ際、悔い改め帰依されたというエピソードの絵（真ん中）など、思わず立ち止

まって見てしまいます。中には、ご自分で聖人のお姿を模写されている方もおられました（左）。その絵の上には恩徳讃。コピー機のない時代は、師のお姿や書物を写すことは大変尊いことで、それは免許皆伝を意味するほどでした。



お寺と同サイズほどのまわり畳



手作りの経本背表紙



親鸞聖人入形



たくさんの仏さま



家の高さほどある観音さま

寺
こよみ
二 月

一日 浦山お講
七日 荻生・植木
九日 報恩講
十四日 舟見報恩講
十六日 下立お講
一七日 入善報恩講
一八日 熊野・析屋
二三日 報恩講
二六日 三日市報恩講

寺
こよみ
三 月

一日 浦山お講
二日 三日市報恩講
八日 下立報恩講
一〇日 浦山報恩講
一四日 析沢お講
一六日 浦山報恩講
一八日 浦山報恩講
二二日 雪ん子公演
二四日 浦山報恩講
二七日 浦山報恩講
三〇日 浦山報恩講
三一日 浦山報恩講

御正忌

ごしょうき
一月十六日は親鸞聖人の祥
月命日です。それに合わせ
てご法要を勤めます。

一月十五日 午前十時 お講

午後一時 法要

十六日 午前十時 お講

午後一時 法要

講題：臨終の善悪をばもうさず

講師：濱畑 遼一師（大阪）

御正忌ろうそく代

御正忌法要にお持ちください。お
参りできない方はどなたかに託して
いただけるとありがたいです。

※総代さんは集金しません。

日曜学校 かるた会

一月三日 午前十時

御正忌準備

一月十四日 午前八時半

雪ん子公演 春の卒業公演

三月二十七日 午後四時



現代においてこそ日本仏教の
果たすべき使命がある



今、ここに
生きる
仏教

2010年
11月下旬
発売

定価：1,260円（税込） ページ数：288ページ 判型：四六判上製

目覚めよ、伝統仏教！

大谷光真
文化人知事
上田紀行

合 掌

黒西組のお待ち受け法
要も無事に勤修されまし
た。来年四月十三、十四
日のご本山のご法要には
是非ご一緒にお参りさせ
ていただきますよう。

* * *

善巧寺のお待ち受け法
要記念事業のご懇志も二
年目に入り皆さまのご理
解を頂いて順調に進んで
います。今年の春には建
築業者との本契約、来年
春からは修復工事着工と
進めさせていただきます。
長年の願望であった本堂
への木の階段も新しくな
りお内陣の天井も美しく
塗り替えられる事になり
ます。どうかその日を楽
しみに今後もご協力の程
よろしく
お願い致
します。

